

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2397100062		
法人名	自然株式会社		
事業所名	グループホーム じねん		
所在地	田原市豊島町釜鑄67番地		
自己評価作成日	平成31年2月11日	評価結果市町村受理日	平成31年3月5日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigokensaku.mhiw.go.jp/23/index.php?action=kouhyou_detail_2018_022_kani=true&JigyosyoCd=2397100062-00&PrefCd=23&VersionCd=022
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人『サークル・福寿草』
所在地	愛知県名古屋市中熱田区三本松町13番19号
聞き取り調査日	平成31年2月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

--

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

◎軽減要件適用事業所 今年度は「軽減要件適用事業所」に該当しており、外部評価機関による訪問調査を受けておりません。したがって、今年度の公表は以下の3点です。 ①別紙4「自己評価結果」の【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点】と「自己評価・実践状況」 ②軽減要件確認票 ③目標達成計画
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	地域とのつながりを本年度のテーマとしている。地域とのつながりのある活動を行っていききたい。②実際にはなかなかできていないが心掛けている。③理念の共有はできている。実践はできていない。④理念に共感し、少しでも近づけるよう取り組んでいる。⑤玄関に理念が掲示されている。⑥理念に沿ったケアを理解しつつ、実践につなげることが少しずつできている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	毎日の事業所周辺の散歩、近所の公園の草取りなどを実施。運営員会開催等で民生委員の方、地位この方との交流を行っている。挨拶はしっかりできている。②中学生の福祉体験を受け入れている。保育園への訪問をし、交流を図っている。③他事業所との合同運動会に参加。毎日の買い物は近場のスーパーへ利用者と一緒に出掛けている。また、美容院へも出かけている ④喫茶店に出かけている		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	運営推進会議では様々な取り組みを話している。保育園への「雑巾」寄付を行い、利用者との交流を図っている。②公園の草取り、散歩時のゴミ拾い等を行っている ③喫茶店、買い物、地域への外出時にそれとなくかわり方、接し方をさりげなく発信している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	サービス向上に活かしている。事業所の活動状況を報告をし、意見交換等を行っている ②会議でのお茶出し等利用者が行い、日常の生活を見ていただいたり、利用者も会議へ参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	運営推進会議の結果を都度提出はしている。会議への出席はない。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	施設の玄関の施錠はしていない。身体拘束を行わないケアをしている。運営推進会議にて都度報告を行っている。②夜間の動きを察知するためベット柵に鈴をつけて工夫をしている。③全職員が理解できていると思う、拘束や施錠は行っていない。④常に心掛けている、安全に生活されるよう、見守りを重視している		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	学ぶ機会はないが、身体チェック等入浴時、着脱時には行い、互いに注意をしている。②対応に苦慮するときは、他の職員に交代して防止に努めている。③身体的虐待はもちろんのこと言葉の虐待にも注意をし一人ひとり見直している。④言葉使いに気をつけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	教科書で学んで、仕組みは知っているが十分ではない。②学習していない		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	管理者、相談員が対応している。十分な説明を行い、りかい、納得を図っている		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	運営推進会議に参加される家族は少ない。利用料金の支払い時に(1回/月)現状の報告や取り組み等を伝えお話をしている。家族の意向がくみ取れるよう配慮しながら話を進めている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	月1度の会議で意見交換を行っている。日々の意見交換は毎朝の朝礼にて実施。②相談員を通して機会は増えている。③アンケートの実施があり、意見や提案を聞いていただいた。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	取り組んでくださっていると思う。②一人一人の職員をよく見てください。③代表者は日々状況を把握して反映していると思う。④昇給を必要に応じて行ってくださっている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	機会と時間があれば参加させていただいている②研修を受ける機会の確保をくださる③グループリダーを任されることが増え、1日の流れを考えるようになった。④自主的に研修を受けたり、上司から研修を勧めいただき、知識。力量を身に着ける機会をいただいている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている。	今回は同業者の合同運動会の司会をした。他事業者との交流は少ない。運営推進会議にて他事業者との意見交換等をする		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	ケアプランに目を通して②利用者から聞くことはないが、明るく穏やかな雰囲気になるよう笑顔で接し、安心していただけるよう努めている③慶弔に努めている④家族から過去の生活歴や習慣等をきき反映させる		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	努めている。家族や、ケアマネからの情報収集に努めている。情報を職員で共有し、関係づくりに努めている②利用前に面談し、要望や思いを聴く、情報を職員で共有。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	努めている。入所前に本人・家族・に職員が面談し情報を得ている。②DS利用が必要と判断したときはDSの利用も考える③利用者一人一人に合ったサービス計画を作成する		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	日常生活をともに送る関係は築いてきている。人生の先輩として教えてもらうことや助けてもらうこともある。ともに協力している。②食事を作ったりしている。③努力している。できることを見極め、できることは任せている。④「家族として皆と過ごしたい」と思っている。⑤利用者と一緒に楽しく過ごせるよう勉強中です。		
19		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	代表者や職員はその気持ちがある。しかし、家族の問題もあるため全利用者にはできていないと思う。②努めている。③電話等で利用者の変化があるときはその都度報告をしている。受診、必要物品の補充等協力をしていただいている。④行事への参加を呼び掛けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	支援に努めている。②盆に墓詣りに行かれる方も見える。親戚の方、友人等面会に來たりゆっくり話をしてもらっている。③家族の協力がむづかしい面もある。(入所したらほったらかしの家族も見える)④地域の催しや行事などできる限り参加する。⑤近隣へのドライブやピクニックに出かけている。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	座席の変更を試みたり、ときに職員が間に入って孤立しないよう努めている。②料理や洗濯等みなで協力し合いながらやっている。③まだ完全ではないと思う。④利用者同士の人間関係を把握し職員は支援している⑤家族としてともに生活していく、支えあうような支援に努めている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	あまりできていないと思う。退去した方は死亡した人がメイン。たまに他の施設に変更されていくが、情報は得るようにしている。②事業所でお亡くなりになった方の家族がたまに来所されることがある。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	利用者とのコミュニケーションをとる中で、希望、意向の把握に努めている。②意向等と言える利用者が少ない。③すべての方を把握できていない。把握するように努力をしている。④ケアプランを参考にしている⑤日常の会話から情報を得たりしている。思いが実現できるよう努力している。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	代表者によるアセスメントを元に把握するように努めている。②個人記録を読み今までの暮らしを理解、把握する。本人や、家族とのコミュニケーションからも情報を得る。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	利用者の状況確認のため、申し送りノート、ケース記録等を活用し、把握に努める。②前年度より心身状況についての理解が深まっている③毎日、少しの変化を見逃さない気を付けている。全他のことを把握するにはまだ不十分④毎日の暮らしの中での些細な変化まで記録に残しておく⑤出勤時に個々の状態変化をケース記録等にて確認、把握に努めている、		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	家族と話すことはないが職員同士でかいぎなどで意見を出し合い行っている。(外部との情報収集、報告は代表者、チームリーダー、指導員で行っている。家族とのトラブル防止のため)②行っている。問題点など会議や通常業務内で職員間で共有し、ケアに反映している。③月1回の会議でモニタリングを行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	ケースに記録をしている。①日常の様子や身体状況は個人記録に残し、情報共有している、職員全員が同質のケアができるよう努めている。②職員間の情報共有はあまりできていないと思う。③活かしている。気づきなど記録し情報共有している④利用者によりばらつきがある。⑤ケース記録に目を通すことで共有しながら活かしている⑥業務前の記録の確認を心掛けている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	事業所としてはできていると思うが、自分は柔軟な対応があまりできていない。②DSを利用される方も見える。③DSと合同での地域訪問や行事など行っている。④月に1回落語会を実施(愛知大学生による)		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	公園の草取り、家庭菜園、ごみ拾い、地域保育園への訪問、地域行事への参加②体験学習の受け入れ③外出を楽しむことができるよう工夫をしている		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	支援できている。基本は家族が受診支援をされている。緊急時は家族了解のもと職員が受診することもある		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	支援している。週2回訪問看護師が見えている。利用者の状況報告や都度必要な指導も受けている②看護師に些細なことまで伝えている。③常に報告、助言を得ている		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	病院関係者との情報交換や相談はできている。病院関係者との関係づくりは相談員が中心となり、行っている②医療行為が終了した暁には早期退院を家族や医療関係者に相談している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	代表者や相談員等が家族と話し合いながら行っている。②取り組んでいる。家族の意向を組み入れている③今後も取り組んでいきたいと思っている④主治医が協力的であり、相談もできる		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	定期的に行われてはいない。AEDの訓練に参加はしたが不安はある③事例があるごとに会議で勉強はしている④まだ自分は不十分である。勉強会等で身につけている⑤緊急のマニュアルや連絡網はある。応急手当の勉強会は今後もけいぞくしていく		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	防災訓練は年2回行っている。消防署の方を招き勉強会も開催している。②毎回、反省点を上げ次に生かすよう取り組んでいる③知己との協力体制の構築に取り組んでいく		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	人格を損ねない言葉かけを心掛けている。利用者の乱暴な言葉につられないよう心掛けている②難聴の方に対し大声で話してしまう③時々きつい言葉かけになってしまい、反省をしている④できている⑤優しい言葉を使うよう努力している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	働きかけている。食事づくり前などこみゆにけーしょんを図り、利用者の発言の場づくりをしている。②努力している③高齢になり、活動の減少がみられるが極力本人の意思に沿うように努力している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	あさのコミュニケーション時、1日の流れを話し、利用者の反応、体調を見合わせて支援をするようにしている。②一人一人のペースが異なり全員が思い通りに過ごせることはむつかしいが極力努力はしている。職員ペースになってしまいがち③業務優先になってしまうことがあり、注意している。1日1回でもいいので楽しいと思える時間を作るよう心掛けている		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	家族の方の協力のもと支援している。②毎日洗濯したての衣類を着用している。衣類チェックをしている。③自分で選ぶことができる方は選んでもらっている④清潔な衣類管理をしている。散髪も定期に行っている。季節ごとに衣類の出し入れをしている		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	食事づくりは毎食、利用者と一緒に作っている。それぞれが役割をもって行っている。②職員も一緒に作り、食べている。③昔、作った料理を取り入れたりしている。作り方を思い出していただけるよう声掛けをしている。④準備や片付けも一緒にしている。自立した生活ができるよう心掛けている		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	水分摂取に関しては、飲み物の種類を増やし、工夫もしている。すべて記録に残している。②肉、魚、野菜等家庭料理の提供をしている③支援できている④量は個人に合わせ盛り付けをしているまた摂取量は記録に落としている⑤季節の行事食は常に実施し、楽しみながら食している		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後口腔ケアを実施。夜間は入れ歯は洗浄液に保管している。②本人任せの方に関しては不十分な時もある③歯のない方は舌や歯茎を中心に行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている。	個々の排泄能力に応じて紙パンツ、パット、夜間の紙おむつ等使用している。②日中、夜間もメインはトイレにて排泄である。時間を見ながら個々で誘導している③排泄に関する記録は記載している④取り組めている。排泄パターンをつかみ紙パンツ等の使用量の減少も図っている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	体を動かす日常を心掛けている。日常の中でのリハビリを行っている。②時には腹部マッサージや入浴時マッサージ等心掛けている。③朝、昼、夕の散歩をしている④下剤は極力避けてはいる。水分摂取、食事等の配慮をしている⑤冷めた飲料を提供する		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている。	個々の状態に合わせて行っている。コミュニケーションをとりながら気持ちよく入浴していただけるよう努めている。②職員の意向で決めてしまうこともある③血圧状態に合わせて行うことは基本としている④必ず声掛けを行い承諾を得て行っている。現状が希望される方はほとんどいない⑤一人に人湯が基本でいつも清潔な湯に入っているのほとんど拒否は見られない		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	夜の睡眠に影響しないように昼の休憩を個々人に合わせ調整し、気持ちよく眠れるよう配慮している。①夜間のみパット、紙おむつにしたり、無理に起こすことが無いように支援している。②昼夜逆転にならぬよう日中は活動ある日常を提供し、ゆっくり休めるように支援している		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	努めている。「薬剤ファイル」を作成している②すべては理解していない。症状の変化など気を付けて様子観察をしている。③薬剤ファイルを活用している④内服の記録をしている⑤誤訳がないように複数の職員が確認するようにしている ⑥主治医等にも相談をしている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	レクへの工夫をしている、ケーキ、クッキーづくりなどして皆で食している②合同レクを時に行っている(DSとの)③利用者の経験を生かした畑仕事を行っている④弁当持参の郊外散策、ドライブ等外出支援を行っている⑤毎日般若心経を唱えている。また、自分の名前が書けるよう名前書き、簡単計算等行っている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	職員側から天気、外気温等考慮したうえで外出の機会を作っている。買い物は毎日職員と一緒に出掛けている②全員が高齢、認知症の症状が重度となってきたため、以前に比べ外出機会は減ってきている。③敬老会等で家族や地域の方と一緒に楽しんだりしている。またクリスマス会も同様である。④ピクニックやドライブなど近郊の公園や名所に出かけている		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	本人の希望があるときは、家族の了解のもと会に行くことはある。喫茶店は自分で支払うように支援している。②お金の管理がむづかしくなったり、トラブルすることもあり、お金の管理は事務所で預かっている。③買い物など本人のものの時は支払ってもらっている④個々人の能力に合わせて行っている		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	現状は要求がなくなっている。年賀状は毎年レクで書いて家族に送っている。②向こうからの電話があれば出ている。自分からはかけることはない。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	扉に「便所」「風呂」など書いてある。各居室は色で工夫してあり9通り居室の色がある。また、階段には赤色が施してあり段がわかりやすくしてある②季節の花がダイルームには飾ってある。採光、温度はいつも配慮している。③事業所全体が工夫されている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	居室は個室となっている。DRMの席は相性の良い相手が横に座れるように配慮をしている。また、畳椅子が置いてある。②廊下やエレベーター前に畳椅子を設置してある③利用者の不穏時には庭に出たり、近所を散歩する		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	一部の人は使い慣れた家具を持ち込んでいる。②ほとんどの方は日中はDRMで過ごされ、居室で過ごされる方は見えない。そのため殺風景な部屋の方も見える。週に1回はシーツ交換と掃除を実施。寝巻は週2回洗濯をしている		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	工夫はなされている。毎日の洗濯干しは利用者が行っている。その時の階段の上り下りは、職員見守りの上のリハビリとなっている。DRMのテーブルや椅子は安全が配慮されている。様々なところで工夫がなされ個々の能力を生かした日常生活が送れるように配慮されている		